

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人堀口嘉平太の上告趣意は、事実誤認、単なる法令違反、量刑不当の主張であり、被告人本人の上告趣意は、違憲をいうが、すべて原審の認定にそわない事実関係を前提とする主張であつて、いずれも刑訴法四〇五条の上告理由にあたらない（なお、被告人の所論供述に任意性、信用性を認めた原審の判断は相当である。）。

よつて、同法四一四条、三八六条一項三号、一八一条一項但書により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和四九年四月二五日

最高裁判所第一小法廷

|        |   |   |       |
|--------|---|---|-------|
| 裁判長裁判官 | 大 | 隅 | 健 一 郎 |
| 裁判官    | 藤 | 林 | 益 三   |
| 裁判官    | 下 | 田 | 武 三   |
| 裁判官    | 岸 |   | 盛 一   |
| 裁判官    | 岸 | 上 | 康 夫   |